

業務フロー・コスト分析等の結果に基づく業務改善事例

独立行政法人名	国立研究開発法人国立環境研究所	部課室等名	総務部総務課
対象事業名	「国立環境研究所 科学技術週間に伴う一般公開」及び「国立環境研究所 夏の大公開」	実施期間	4月及び7月
分析対象とした事務区分	研究所の一般公開における来所者への対応業務		
分析実施の背景 (問題意識等)	毎年4月及び7月に開催している研究所の一般公開(その行事の性格からいずれも土曜日に実施)に係る来所者への対応については、多くの職員が休日出勤により対応してきた。特に4月の開催については、決算時期のため会計担当職員は業務多忙であり、また、事前の準備や説明会の対応のため、本来業務の時間を割いている状況にあった。このため、職員の負担軽減の観点からその運営業務等について検討を行った。		
分析により 明らかになった点	職員が一般公開当日に行っている業務のうち、 ①展示対応や講演など、公開している内容そのものに係る業務については、ほとんどが職員(研究者)の対応が必要。 ②一方、管理運営業務については、従来より設営など一部外部発注していたが、更に職員以外の対応が可能なものについて、洗出し・検討を行い、交通・所内誘導に係る業務や受付業務の一部などにおいて、民間への外注が可能と判断した。		
分析結果に基づき 講じた改善措置	交通・所内誘導に係る業務(来所者(歩行者、自転車、自動車)の誘導(駐輪場、駐車場への誘導含む)、受付業務の一部(来所者への配布物の受け渡しなど)について、外注化を図った。		
その効果	コスト面では、職員の休日給を考えれば外注費用は安価であり、また、研究所の一般公開は、近年、春、夏あわせて5千人前後の来所者となっており増加傾向にある中、交通・所内誘導に係る業務を職員対応から専門の警備会社に外注したことにより、自動車の適切かつ迅速な誘導と来所者の安全で安心な通行が確保されるなど、効率的・効果的な行事運営が図られた。		